

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

令和3年度第1回美里町在宅医療介護連携推進会議

2 開催日時 令和3年6月22日（火） 午後6時30分から午後7時41分まで

3 開催場所 美里町健康福祉センター 1階保健指導室

4 会議に出席した者

（1）委員

大蔵暢委員、野田清一委員、高橋均委員、吉村英晃委員、尾形文克委員、
伊藤恵委員、三浦禎委員

（2）事務局

渡辺克也、相原浩子、五十嵐華絵、小林公美

（3）その他

宮城県北部保健福祉事務所 小笠原貴望

涌谷町福祉課包括支援班 早坂宏美

社会福祉協議会 高橋ゆかり

健康福祉課 及川沙希

町民生活課 佐藤千賀子

5 議題及び会議の公開・非公開の別

議事

（1）美里町在宅医療介護連携推進事業計画（令和3年度～令和5年度）について

（2）今年度の事業の取組状況について

その他

（1）高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業について

（2）介護予防事業について

（3）認知症事業について

6 会議の公開・非公開の別

公開

7 傍聴人の人数

0人

8 会議資料

別紙のとおり

9 会議の概要

署名委員 高橋均委員、尾形文克委員

(2) 議事

(1) 美里町在宅医療介護連携推進事業計画（令和3年度～令和5年度）について	
事務局 小林より説明	
野田委員	計画についての質問はありますか。
野田委員	「在宅医療と介護マップ」について、平成30年にも町民向けとして「美里町の医療介護福祉の便利マップ」を作成しましたが、全く別のものを作成するのですか。
小林	はい。遠田郡の医療機関と介護サービス事業所を掲載したパンフレットを新しく作成する予定です。
(2) 今年度の事業の取組状況について	
事務局 小林より説明	
・「在宅医療と介護マップ」の作成について説明	
野田委員	今回は全ての町民に配布しないのですね。
小林	はい。前回マップを作成した時は全戸に配布しました。今回は、民生委員等に、私たちの取組や活用の仕方を伝えながら配布できると良いと考えています。
大蔵委員	美里町の住民は、町内にある介護サービス事業所だけを利用しているわけではないと思います。町外の事業所もサービス提供しているので、マップに載っているのが遠田郡内だけになっているのはどうなのでしょう。
小林	大崎圏域や石巻圏域の医療機関、介護サービス事業所も掲載できると良いとは思いますが、どこまで掲載するべきかを判断するのは難しいところがあります。 まずは、遠田郡の情報をまとめたマップを作成し、ただ配布するのではなく、説明しながら配布できるようにしたいと思います。
野田委員	大崎市等でも同じようなマップは作成していると思うので、必要な人には、他市町村の情報を提供できると良いと思います。

大蔵委員	事業所の名称や連絡先の一覧を掲載しているだけでは、どこまで町民が有効に使えるのでしょうか。
吉村委員	<p>介護サービス情報公表システムというものがあり、県が推進していますが、活用されていない現状があるので、そこは県の課題だと思います。</p> <p>美里町内には医療機関が少ないため、在宅で看取りを希望された場合、医療機関が限定されてしまいます。マンパワーが慢性的に不足しているので、ヘルパー事業所を調整するのも難しい状況です。</p>
大蔵委員	マップに相談先リストがあると良いと思います。その人に相談すれば大丈夫だと分かれば良いのではないのでしょうか。
吉村委員	個人的には、なんでも相談できるよろず相談場所があると良いと思います。
相原	<p>町にある介護サービス事業所と、その事業所でできることを知ってもらうことは必要だと思います。</p> <p>委員の意見から、相談場所を住民にお知らせすることが大事だと感じました。</p>
大蔵委員	住民の目線になり、住民が何に困っているのかが分かれば良いと思います。
相原	今回は、全戸配布ではありません。介護サービス事業所同士がやりとりできるように活用していきたいと思います。
大蔵委員	広報誌に情報を入れ込むのはどうなのでしょう。
吉村委員	地域の回覧板の方が目に留まると思います。年に1回ではなく、半年に1回とかのペースで周知した方が良いのではないのでしょうか。
野田委員	利用する側からだと、私も母が入院した時、病院の医師が、町の地域包括支援センターを紹介してくれました。介護サービス事業所のこと等、親身になって相談にのっていただき、やはり、地域包括支援センターが相談の中核だと感じました。それを、町民に情報発信していくことが基本で、その方法がマップや広報誌だと思います。地域包括支援センターへ相談をして、ケアマネジャーにつないでもらい、より詳しい情報を教えてもらうというのが自然の流れだと思います。
大蔵委員	野田委員のお母さんは、病院や地域包括支援センターのネットワークにより、その後のサービスにつながっていったのだと思います。
小林	ご意見ありがとうございました。医療や介護について初めて相談する人は、どこに相談したら良いのかが分かると良いと改めて感じました。地域包括支援センターが相談窓口になっていることを、今後も継続して周知していくことが必要だと感じました。マップ以外の方法も

	検討していきたいと思います。
事務局 小林より今年度の事業の取組状況について説明 ・ワーキングの開催について報告	
吉村委員	<p>ワーキングの報告をさせていただきます。</p> <p>まず、従事者向け研修会の内容を検討しました。町民目線で本人、家族の意思決定支援を考える機会があっても良いと思い、「意思決定支援」をテーマに東北会病院の鈴木相談員の講話を提案しました。美里町でも在宅で最期を迎えたり、認知症の方が多くなっています。専門職として意思決定を分かっていないとサービスを調整するだけのケアマネジメントになってしまいます。鈴木さんはアルコール依存症の専門ですが、障害があってもなくても当事者の意見を聞き、当事者の生活を守るという視点でお話ししてくれます。</p> <p>次に、薬剤師との連携ですが、町民にも薬剤師の役割を理解してもらえると良いと思います。町内の薬剤師と情報交換をした際、地域課題がはっきり見えているが、どのように動いていいのかわからないという意見があり、検討していく必要があると感じました。</p> <p>認知症カフェに参加しました。軽度の認知症の方が参加されており、旦那さんに支えられ、近所にも助けられて生活している方でした。すごく良いと感じました。民生委員も参加していましたが、地域の認知症の方のことを誰にも相談できないと話していました。これが、地域課題であり、解決する必要があると感じました。</p>
小林	<p>今まで、事業について行政だけで考えていましたが、ワーキングを行い、委員の皆さんと企画しました。従事者研修会については、「意思決定支援」をテーマに東北会病院の鈴木相談員に講師を依頼し開催する予定です。</p> <p>尾形委員と伊藤委員にもワーキングに出席していただきましたが、どうでしたか。</p>
尾形委員	<p>医療や介護で困っていることや、普段だと意見として出ないこと、疑問に思っていることをより深く話し合えたと思います。そして、意見にあった研修会を開催できれば、医療と介護の連携に役立っていくと思います。今後も継続してワーキングを開催し、遠慮のない意見を出してもらえると良いのではないかと思います。</p>
伊藤委員	<p>研修会のテーマにした「意思決定支援」は、今の時代に合っている内容だと思います。事業所の人たちが、やらなければいけないことだと示すためにも、内容としては良いと思いました。また、日々悩むことも多いので、皆で検討していけると良いと思います。</p>

	<p>薬剤師との連携については、施設職員や町民の皆さんへ、薬剤師はすぐに相談できる職種だと分かってもらえると良いと思います。</p>
小林	<p>皆さんが日々関わっている中で思っていることを、ワーキングで意見交換をし、進めていきたいと思います。内容に合わせて、他の委員の皆さんにも参加していただければと思います。</p>
<p>事務局 小林より今年度の事業の取組状況について説明</p> <p>・薬局薬剤師の状況把握について説明</p>	
小林	<p>高橋委員から感じていること等があれば意見ををお願いします。</p>
高橋委員	<p>薬剤師会では、ケアマネジャーや栄養士との合同研修会をしております。美里町のケアマネジャーや事業所の方も参加していると思います。事業所職員向けの研修会を開催するという事で、アインファーマシーズの市ノ渡真史さんを紹介しました。東北6県で活動しているので、広い知見を持っており、行政や企業等様々な場所で活動している方です。住民向けの研修会については、市ノ渡さんと講師を調整しています。</p> <p>薬局によって問題意識や困っていることはバラバラだと思います。情報共有を図りながら、町民への支援の体制を図っていきたいと思っています。</p>
小林	<p>薬局へのヒアリングで把握できたことを会議やワーキングでお伝えしながら、連携の方法について皆さんと考えていきたいと思います。</p> <p>三浦委員にもお聞きしたいのですが、県として把握している他市町村の状況や連携をしている上での課題等があれば、教えていただければと思います。</p>
三浦委員	<p>栗原市の保健所にいましたが、栗原市では地域ケア会議に薬剤師が入っています。健康状態のアセスメントの抜けや漏れに気づかないで展開されているプランが出てくることがあります。そこで、客観的な意見を出してくれるのが、薬剤師や看護師、歯科衛生士、栄養士です。ケア会議には薬剤師にはぜひ参加してほしいと思います。それぞれ持ちうる専門性が一同に集まる場になるので、そういう場を作ってもらえると、連携というか顔の見える関係も必然的にできていくのではないかと思います。</p> <p>今年度からの計画にある「高齢者の栄養・口腔機能・薬についての知識の情報提供と関係機関の周知」について、非常に興味があります。食事介助で不随運動があり困っている方の相談では、薬の影響も考えられます。高齢者は多くの薬を内服しており、薬剤師や栄養士が会議</p>

	に入っていると非常に良いと思います。
小林	昨年度、地域個別ケア会議をして挙がってきた課題が栄養・口腔機能・薬でした。ケアマネジャーだけでは、アセスメントの抜けに気づくのは難しいところがあります。そこを様々な専門職で補ったり、気づいていっしょに考えていけると良いと思います。そして、それが当たり前になると良いと考えており、今年度は、薬剤師にも地域個別ケア会議に入らせていただく予定です。
野田委員	前回の地域個別ケア会議のメンバーを教えてください。
相原	町の栄養士、在宅の歯科衛生士、ケアマネジャーとして吉村委員、リハビリ職員として理学療法士の尾形委員に出席していただきました。町の地域包括支援センターからは、社会福祉士、保健師が出席しています。そして、ケアを考えるところなので、担当しているケアマネジャーとサービス提供している事業所の方にも入ってもらいました。昨年度は、会議で出てきた課題に薬がありました。どうしてこんなにふらつくのだろうか、その原因は薬ではないか。ケアマネジャーは利用者の体重は変わっていないと言うが、栄養士からみたら本当に食べているのか疑問であるという意見をいただいたりしました。
野田委員	他に、質問や意見はありますか。
	(特になし)
その他	
(1) 高齢者の保健福祉事業と介護予防の一体的実施事業について	
美里町健康福祉課及川保健師より説明	
・令和3年度に取り組むポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチの内容について報告	
(2) 介護予防事業について	
事務局 五十嵐より説明	
・美里町いきいき百歳体操啓発事業の実施状況の報告	
尾形委員	同じ法人の作業療法士2名が事業の支援を行っております。最初は個人的に、町民の参加は少ないのではないかと感じていました。しかし、男性、女性とも参加しており、他の地域からも開催したいと声が上がっているということで、健康に関して気遣っている方が多いことに驚いています。ただし、この体操だけをして筋力がついたり、健康維持できたりということは難しいため、高齢者の医療介護情報の把握、健康状態が不明な高齢者の把握、閉じこもりがちの高齢者の把握につながってくれば理想的であり、リハビリ職員にもそこについて気にするよう話をしています。

(3) 認知症事業について	
事務局 五十嵐より説明 ・みさところろカフェ（認知症カフェ）の実施状況の報告	
吉村委員	もっと小さい単位で、地域の集会場で地域の人たちが話す機会があると良いのではないかと感じました。地域の方は行政には頼りたくない等と思っているところがあります。民生委員や行政区長がつなぎ役になり、地域包括支援センターにつないでくれると、もっといい地域になると思います。
野田委員	いきいき百歳体操や認知症カフェでは、何かあったら地域包括支援センターに相談していいよとアピールしてもらっていますか。
相原	はい。
大蔵委員	相談に来ない理由として、相談先が分からないというのが一つあると思います。しかし、相談先は分かっているが何らかの理由でそこに行きたくないという人もいます。それはなぜなのでしょう。
吉村委員	地域性もあると思います。困っていても隣近所に相談できず、どうしようもなくなり、地域包括支援センターに相談することがあります。
尾形委員	自分たちでできるとしている方もいます。
大蔵委員	プライドがあって相談に来ない人は仕方ないと思います。これだけ相談場所を伝えているのに、相談件数が増えないのは他に何かあるのではないかと考えても良いと思います。
相原	相談場所がない、お知らせしていないと思っていましたが、なぜ相談に来ないのかという視点はありませんでした。
大蔵委員	相談場所は地域包括支援センターだけでは足りないのかもしれませんが、ただ、ネットワークはできているため、どこかで受け止められれば良いのだと思います。
相原	今後も話題になることであり、皆さんと話をしていきたいと思います。これで会議は終了となります。次回の会議は、10月頃を予定していますので、よろしくお願いします。
	終了 午後7時41分

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和3年 月 日

委員 _____

委員 _____